臺灣日日新報 (第二版) (明治卅一年一月五日第三種郵便物認可) 昭和十八年十月十四日 (木曜日)

東久邇宮盛厚王殿下
照宮様輝く御結婚
晴れの賢所大前の御儀

東久邇宮盛厚王殿下

照宮成子内親王殿下

宮内省告示

【東京發】東久邇宮盛厚王殿下と照宮成子内親王殿下との御結婚の儀は十四日賢所大前に御式を挙げさせられた、この日御結婚の勅使として入御門から参入された、勅使は一條實孝侍従長、女官は高倉寿子女官長、御式は午前十時三十分から始められ、御式の次第は左の如くであつた

一、勅使參入
一、内陣御戸開
一、御告文奏上
一、御玉串奉奠
一、勅使御祭文奏上
一、御神楽
一、勅使御退出
一、内陣御戸閉

御式終つて勅使は御告文を内陣に奉安し、次で御玉串を奉奠し、御祭文を奏上した、御式中御神楽が奏せられた、御式終つて勅使は御祭文を内陣に奉安し、次で御玉串を奉奠し、御祭文を奏上した、御式中御神楽が奏せられた、御式終つて勅使は御退出になつた、次で東久邇宮盛厚王殿下と照宮成子内親王殿下とは本日午前十時三十分から賢所大前の儀に臨ませられ、御結婚の儀を挙げさせられた、御式は

社説

英米の謀略外交愈よ露骨

イタリア、バドリオ政権の成功的成長によつて味を占めた英、米外交謀略は、今後いよいよその度合を高めて中立国に及ぼすであろうことは既に各方面の観測するところであるが、果せる哉ポルトガル政府は十二日夜に至り同国アゾーレス諸島を英国が使用することに同意する旨を通告し来つたが、英、米両国のこの要求は勿論以前から既に相当強硬なものがあつたことは想像に難くない。即ちアゾーレス諸島は大西洋上に於ける英、米両国の航空基地として極めて重要な価値を有するものであるが、ポルトガル政府は右要求に対して極めて慎重な態度を以て臨んだ。即ちポルトガル政府は右要求に対し、ポルトガルの中立維持の為めに必要な措置を講ずるとともに、それに対する英国の援助を要求したのである。即ちポルトガルの中立維持に関する英国の援助とは、英国がポルトガルに対し軍事的援助を与えることを意味するものであつて、英国はポルトガルの中立維持の為めに軍隊を派遣することを約束したのである。

ただ、この間われわれは特に注目を要することがある。即ちポルトガルの要求がスペインとの不可侵条約に関連することである。何故ならば英米のこの要求をポルトガルが受諾するならば、同国がスペインとの不可侵条約に違反することとなるからである。即ちポルトガルは英国と友好関係を維持しつつあるが、果たしてスペインとの間はどうであるか。即ちポルトガル及スペインの両国はイベリア半島の平和維持に関し、永久にその紛争をなくすることを約束しつつあるが、果たしてこの両国間に紛争なきやうにとの英国の策動が以前から行はれつつあるのではないか。ヒトラー国際政治が、特に大西洋上に於いて英国との

竹の園生の御慶事
二重橋前奉祝の人波
一億また慶びと感激

畏くも皇太子殿下には去る十三日御誕生日を迎へさせられたが、この日二重橋前の奉祝の人波は十二月四日以来の盛況を呈した、この日は午前十時から宮城前広場に於て陸軍始め各官衙、学校、会社、団体等の代表者約一万名が参集して奉祝式が挙行された、定刻前から降りしきる雨をついて続々と参集した人々は、宮城前広場から二重橋前にかけて埋めつくし、式は君が代奉唱に続いて宮城遥拝、最敬礼、万歳三唱と厳粛裡に終了したが、この間雨は一層激しくなり、参集者の服装はずぶ濡れとなったが、誰一人として雨具を用ひるものもなく、また式後も容易に解散しようとせず、いつまでも二重橋前に佇立して、畏くも竹の園生の御慶事を寿ぎ奉るのであった、尚この日は宮城内の各官衙、学校、会社、団体等でも奉祝式を挙行した

日本の有難さに感泣
軍人遺家族慰藉會
日曜の贈る恩榮の一刻

大日本傷痍軍人会東北地方聯合会主催の軍人遺家族慰藉会は十四、五の両日午後二時から台北公会堂で開催されるが出席者は台北市内は勿論、遠く宜蘭、羅東、蘇澳、基隆、瑞芳、金瓜石、新竹、桃園、大渓、中壢、楊梅壢、新埔、竹南、苗栗、大湖、公館、銅鑼、三義、豊原、東勢、葫蘆墩、埔里社、草屯、南投、集集、水里、林圯埔、竹山、鹿港、彰化、北斗、二水、員林、田中、社頭、溪湖、大村、永靖、埔心、北投、士林、淡水、三重埔、三峡、鶯歌石、桃園

臨路克服

必勝米穀增產へ

高雄州

來一期作より共同田植

皇國農民魂を顯現

若人の士氣愈々旺盛

新興青年校査閲好成績

三男兒今陸·海·空に

殘る男子皆捧げる決意

賴母し、ここに軍國の家

廣大無邊　聖旨に感謝

白衣の天使林田さんの便り

非人道爆撃の實相

ドイツ國民は如何に戰つたか

諸君必ずつよけ！

空の戰士學徒へ熱の激勵

飛行機潮州郡號

赤誠燃ゆ、獻金者つづく

總額八千七百圓

硬貨回收更に拍車

受けた慰問金を

そのままそつくり獻金

いよいよ活動開始

臺東廳健民指導網確立

三井生命

マツダランプ
もつと飛行機を——そのための節電

（第二版）（郵便物認可）　昭和十八年十月十四日（木曜日）　臺灣日日新報　第一萬五千六百六十八號　A　（一）

東亞共榮圏建設完成促進
比島獨立の重大意義

比島獨立全文
比島獨立宣言

共榮圏建設大躍進
東亞相談
這しき亘歩 大東亞結集 青木大東亞相談

東亞諸友邦團結
國民政府汪主席談話

東亞共榮使命に邁進
黒田最高指揮官祝辭

比島軍政撤廢布告
兄弟國として援助
黒田最高指揮官談話

短期間に一大廻轉
比島獨立までの經緯

大統領宣誓

密接な臺比關係

激東南亞軍司令部戰況發表

希望と勇氣
ポース總裁慶祝聲明

闘ふ印度同胞に

獨新鋭戰闘機出現
空の要塞を忽ち屠る

同志國家永久に發展
張滿洲國務總理談話

阿部國政總裁祝辭

憲法に

民族四百年の宿望
比島共和國成る
感激と興奮・荘厳の一瞬

天の時に人の和
陸軍中將前田正實氏談

比島の國旗を贈る
陸軍省指導官に

岡部文相く切手帳
比島の文相から贈る

青年錬成を強化せよ
錬成する街庄長に說く
岡部文相

科學研究費を增額
七百萬圓の支出決定

研究動員會議
陸海軍研究員會と共に

最後の勝利へ敵國
テー・モン大使決意聲明

大戰必勝の雄叫び
港口で百米語越壇大會

全ビルマ米英擊砕

前半期目標を突破
貯蓄好成績

後の國志
（出師の表）
（27）
矢野峰人・矢野峰人訳

ソ月十五日午後東京に着いたラウレル大統領一行の歡迎式